

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
5	滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名 (原題/訳)	
Evidence for a positive association between pulmonary function and wine intake in a population-based study. 集団におけるワイン摂取と呼吸機能の正の関連	
執筆者	
Schunemann HJ, Grant BJ, Freudenheim JL, Muti P, McCann SE, Kudalkar D, Ram M, Nochajski T, Russell M, Trevisan M.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Sleep Breath. 2002; 6: 161-73.	
キーワード	
呼吸機能、1秒量 (FEV1)、努力肺活量 (FVC)、ワイン	
要 旨	
<p>背景</p> <p>呼吸機能の低下は総死亡や循環器疾患死亡の予測因子であるが、呼吸機能の規定因子は明らかとはなっていない。抗酸化ビタミンと呼吸機能が正の関連を示すことから、酸化ストレスやその防御因子と呼吸機能の関連が推測されている。アルコールそのものは酸化促進物質であるが、ワインには抗酸化作用があると考えられている。本研究は、一般住民を対象としてアルコール飲料の種類と呼吸機能の関連を検討した。</p> <p>対象と方法</p> <p>ニューヨーク州の自動車保険協会のリストから、無作為に 35 歳から 79 歳の対象者を抽出して研究への参加を呼びかけた。4,946 人に呼びかけ 2,537 人が参加を承諾し、データ欠損がなく、白人または黒人で閉塞性肺疾患や喘息などのない 1,555 人を解析対象とした。これらの対象者に 1 秒量、努力肺活量の計測、飲酒習慣の評価が行われた。過去 30 日以内と生涯の飲酒習慣の両方が問診で把握された (前者は g/日で、後者は飲酒総量 kg で表記)。またこの地域で主に飲まれているアルコール飲料ごとにそれぞれの飲酒量が調査された。また血清の抗酸化ビタミン (ビタミン E、C、ベータクリプトキサンチン、ルテイン) も測定された。</p> <p>結果</p> <p>平均年齢は 59.9 歳で、現在飲酒者は 68.1%、平均飲酒量 (過去 30 日) はエタノール換算で 8.2 g/日、平均生涯飲酒量は 210.6 kg であり、ビール (3.0 g/日)、白ワイン (1.3 g/日)、赤ワイン (1.0 g/日)、リキュール (2.8 g/日) が主な飲料であった。血中の抗酸化ビタミン濃度は、ワインのみ群で最も高く、1 秒量、努力肺活量はワインのみ群、混合群 (いろんな飲料を飲んでいる) で最も高かった。線形重回帰分析の結果 (喫煙、喫煙年数、体重、教育、血中好酸球、血清抗酸化ビタミン濃度等を調整)、ワイン摂取および白ワイン摂取は、1 秒量、努力肺活量と有意な正の関連を示したが、総飲酒量や他の飲料は肺機能と関連を示さなかった。この結果は、過去 30 日以内と生涯の飲酒習慣のどちらを用いても同様であった。赤ワインと白ワインを別々に解析すると、赤ワインと呼吸機能の関連は白ワインより弱かった。</p> <p>結論</p> <p>飲酒そのものは肺機能と何の関連も示さなかったが、ワイン摂取は呼吸機能と正の関連を示し、呼吸機能低下の防御要因であることが示唆された。しかしながら抗酸化仮説では、白ワインのほうが赤ワインより関連が強かったことを説明できないこと、ワイン群は他の生活習慣が良好なことから、アルコール飲料の種類と呼吸機能については更に検討が必要である。</p>	